

共生

奈良県生協連

2013年10月

NO.90

万葉のいぶきを求めて—(55)



秋色濃い春日の山々

秋されば かすが 春日の山の もみち 黄葉見る 奈良の都の あ 荒るらく惜しも
おほはらの まひと いまき
大原真人今城

平城宮跡から春日の山々は一望の下に見渡せます。四季を通じて表情を変える春日の山々は大宮人達がいつも眺め親しんでいた山々だったのでしょう。万葉集には「春日の山」は10首、「春日山」は9首が読まれているのを見ても、いかに心を捉えていたかわかります。

「秋がくると、春日の山々が黄葉に染まるのに、都が遷ってしまった今は、黄葉の色までが淋しそうに見えるよ」この歌は都が平城から恭仁京に遷った天平15（743）年頃の作と言われています。都が遷ると共に大極殿や主要な建物も解体して恭仁へ遷され、まさに荒廃した様相を呈していたのでしょう。今城の心には、遷都によって平城の都が荒廃していく淋しさと同時に、日増しに強まって来る貴族層間の対立の深まりが重くのしかかり、深い影を落とし、「荒るらく惜しも」の思いを一層強くしていたのではないのでしょうか。

今日の春日の山々は、今城が眺めた時のように紅や黄に染まり、秋深しの感でした。

行ってきました

第8回 平和市長会議総会

参加報告



総会会場にて

平和市長会議は、原則として4年に1回の総会で重要な事項を議決・承認します。第8回総会は8月3日から6日まで広島市の国際会議場で開催され、平和記念式典の6日を前に市内は各国の加盟都市からの参加でにぎわいました。8月4日「ピースアクションをすすめる会」メンバー3名による会議傍聴を報告します。

第8回 平和市長会議総会の概要

- テーマ 「核兵器のない世界」の実現を目指して
～「ヒロシマ・ナガサキの心」を世界に～
 - 参加者数 : 157都市251人、各国政府11か国13人、
自治体組織・NGO等18団体41人、合計305人
 - 総会の内容
 - ①ヒロシマアピールを採択
 - ②議題：規約の改正、運営体制の充実方策、行動計画について等
 - ③関連会議：国内加盟都市会議、市民団体、被爆者団体、各国政府、NGOとの対話集会など
- ※第8回総会で名称が平和首長会議に変更されました

平和市長会議

5,736都市が加盟。役員都市は19市。広島市が会長を務め、副会長は長崎市と海外12市、理事は海外5市。国別の加盟数（9月1日現在）は日本が最多で1366市区町村。海外の上位5カ国はイタリア455▽ドイツ401▽ベルギー378▽スペイン303▽米国196。

会議Ⅲ「平和市長会議の地域のグループ化と
市民と連携した取り組みの推進」

各国の加盟都市から、市民とともにすすめる核兵器廃絶と平和の取り組み報告がありました。被爆者証言を聴く活動が世界中で行われていることがわかりました。占領下にあった都市では二度と戦争を起こしてはならないとの強い思いが活動の熱意につながっていること、中近東では核兵器に加え、化学兵器などの非人道的兵器廃絶への関心が高いことなど、それぞれの特色ある取り組みが伝わってきました。日本からも枚方市と綾部市の市長の発言があり、積極的な取り組みが報告されました。平和市長会議では今後、地域グループによる運営で活動の活性化を目指しています。



発言する加盟都市の代表

「市民団体と被爆者団体との対話集会」

被爆者の坪井直さん、広島県被団協事務局長 大越和郎さん、広島県生協連会長の岡村信秀さん、広島女学院高校の三名の生徒の皆さんから、それぞれこれまでの取り組みの報告や問題提起がありました。被爆者が高齢化していく中で、被爆の実相の伝承がまったなしの課題であることが鮮明になっています。女子高校生によるスピーチでは、様々な場面での平和教育のあり方のアイデアが示され、平和教育の担い手になっていくこれからの世代に会場から大きな拍手が送られました。



広島女学院高校の報告

展示コーナー

- 「被爆者の肖像画展」が開催され、広島市立大学の学生と教員が描いた被爆者やその2世3世の肖像画が展示されました。
- 自治体NGOブースが設置され、日本の加盟都市では武蔵野市、宝塚市、姫路市、川崎市、藤沢市、枚方市、北九州市などがブース出展していました。広島県生協連、中高生ピースクラブなどのNGOも出展、各ブースで交流が行われました。



自治体ブースで交流



中高生ピースクラブのブース

～考えようTPP！私たちは守りたい！みんなの医・食・住～

県民の安心と安全を守る大集会

9月14日 奈良県文化会館国際ホールで開催

実行委員会参加団体：奈良県医療推進協議会・奈良県JAグループ・奈良県森林組合連合会・奈良県生協連

TPPの交渉内容は、工業、農業、サービス業、投資や環境、労働にいたるまで全経済分野に渡り、日本国民のくらしの広範囲におよんで資本の自由化が一気に進む内容になっており、くらしを守るための私たちの活動にとって重大な問題であることがますます鮮明になってきました。年内交渉妥結を前に、奈良県内の団体がこの問題について考える大集会を開催、生協関係者はじめ 1050 人が参加しました。

これまでの流れと奈良県生協連の取り組み

- ◇ 2010 年 10 月 菅総理(当時)がTPP参加の方針表明
- 12 月 奈良県内で反対集会が開かれ奈良県生協連参加
- ◇ 2010 年 12 月 「TPPから日本の食糧、自然環境、国土を守り、農林水産業、地域経済・夜会の発展を目指す」全国 1000 万人署名に取り組み(4468 筆)
- ◇ 2011 年 10 月 会長アピール「TPP交渉への拙速な日本政府の参加に反対します」
- ◇ 2013 年 3 月 安倍総理がTPP交渉参加を表明
- 4 月 会長声明「TPP交渉への日本政府の参加に再度反対を表明します」
- ◇ 2013 年 7 月 交渉に日本が参加

TPP交渉で懸念されていること

主に以下のような点が論点になっています。

- ◇国産品が売れず食料自給率低下を招き、国内農業が壊滅するのではないか
- ◇安い輸入品が入り消費者の選択肢が広がる一方で非関税障壁撤廃により食品基準が緩くなり食の安全が脅かされるのではないか
- ◇医療分野も競争にさらされ、国民皆保険制度が崩れるのではないか
- ◇I S D 条項により日本の主権が侵されていくのではないか
- ◇交渉過程は非公開とされている

多様な角度から発言がありました



会場のようす



瀧川奈良県生協連会長



生協連組合員による寸劇

集会の第1部は、奈良県農業協同組合中央会の永田正利会長の開会挨拶、奈良県医師会の塩見俊次会長による趣旨説明のあと、4つの参加団体からそれぞれ意見表明を行いました。趣旨説明で塩見会長は医療制度への影響にふれ「命は平等、お金持ちだけの医療にしてはならない」と強調しました。奈良県医師会理事の岩井誠さんは日本の優れた制度である国民皆保険が崩れてしまうことへの懸念を、奈良県森林組合連合会専務理事の北野亨司さんは木材の自由化から50年後の林業の現状について述べ、奈良県農業協同組合中央会専務理事の浅井真人さんはコメの関税撤廃により農業が衰退し農村の荒廃による環境や文化へのはかり知れない影響があることについて語りました。

奈良県生協連の瀧川潔会長は、「TPPによって大資本による富の偏在が進みます格差が拡大する。こうした力の暴走に対して声を上げていくのが協同組合の責任でもある」と発言しました。最後に5人の生協組合員による寸劇があり、食の安全や食文化、環境、雇用、保険制度など様々な場面で「TPPに加盟したら困るわ～」と訴えました。

第2部はコラムニストの勝谷誠彦氏の講演があり、参加者は最後まで熱心に話に聴き入り、集会は盛会裏に終了しました。

「福島の子ども保養プロジェクト in なら」 が開催されました

「福島の子ども保養プロジェクト（愛称：コヨット!）」は、福島県生協連の呼びかけで、子どもの心身の健康に不安を感じる保護者の気持ちに寄り添い、支援することを目的として開催されています。奈良県では昨年に続き2回目の開催です。7月26日から29日まで、12家族40名に奈良で過ごしていただきました。（主催：市民生活協同組合ならコープ、共催：近畿労働金庫、奈良ロイヤルホテル、奈良県生活協同組合連合会）

タイムテーブル

- 26日 福島～奈良 ウェルカムパーティ
- 27日 フリータイム
- 28日 「柿の葉すし・くす餅・鹿の角ストラップ」作りの体験
奈良公園（東大寺大仏殿・二月堂）
お別れパーティー
- 29日 奈良～福島

奈良を満喫



奈良の名産柿の葉
寿司づくり体験

27日は家族ごとに思い思いの関西を楽しんでいただきました。

法隆寺や興福寺阿修羅像、京都金閣寺や清水寺、吉野の清流でのラフティング、USJ などなど。

28日は、「柿の葉寿司作りや鹿の角を使ったストラップ作り体験」を行いました。奈良公園では、「ちょっと怖かった」けど、鹿と触れ合って、せんべいをあげて…。東大寺では、大仏殿を参拝しながら無病息災を願って茅の輪をくぐりました。



無病息災を願って東
大寺の茅の輪くぐり

奈良公園で
鹿とふれあっ



東大寺 2月堂前で



参加者の声から

「楽しかった。大人がわらっていたからです」「しかのせんべいをかってあげようとしたら、しかがおいけてきたのでびっくりしました」「本物の大仏がみれてとてもうれしく、はくりょくがありすごかったです」「おともだちもたくさんできたのでうれしかったです」「低・中・高学年という我が家にとっては、家族で参加できる保養プランはとてありがたかったです。福島はまだ放射能物質の影響で日常生活にも注意が必要で、こうして時々子ども達の細胞を元気にしたりしながら、付き合っていかなければいけません」「空気・土・水の放射線量を心配せずに子どもに自然を感じてもらえたことがうれしく思います」「福島を忘れずにいてくれる人たちがいることに感謝いたします。帰ってがんばる勇気をいただきました」

奈良県生協連では、今後も「福島の子ども保養プロジェクト」を応援していきます

3.11を忘れない。。 みやぎ生協から被災地・宮城の いまをお伝えします

東日本大震災から、2年半が経過する中で、東日本大震災のことが風化しつつあり、被災地が忘れられようとしているのではないかと、の危険もあります。この度、被災地の現況をみやぎ生協から提供いただき掲載しました。奈良県生協連ホームページでもお伝えします。

2年半前と変わらない景色がある

震災から2年半が経過し宮城県の災害廃棄物の処理は82%まで終了しました。しかし津波浸水域にはいまでも壊れた家や岸壁、海水に浸かったままの田んぼが残ります。

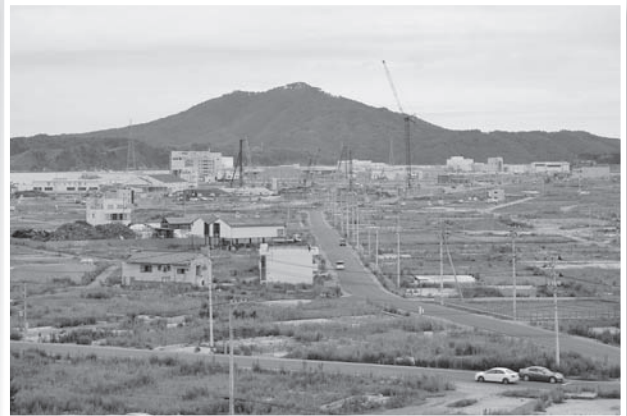
応急仮設住宅で3度目の夏を迎えた方々は9万6千人。県外への避難者8千4百人を加えると10万人が未だ仮の暮らしを余儀なくされています。災害公営住宅は21市町で1万5千戸を建設する計画ですが、2年半を経過してもわずか102戸しか完成していません。漁業の再開率は震災前の約8割まで回復していますが、雇用の受け皿だった水産加工場の稼働率はまだ半分です。工場が再開されても、条件が整わずに就業に踏み切れないでいる人が多いです。

さらに、沿岸部市町では人口流出が加速。女川町では居住人口が半分に減りました。被災した自治体にとっては復興計画を左右する大きな課題になっています。

復旧・復興を妨げる問題が次々と起こり、計画がどんどん遅れていく。それが2年半を経過した被災地の現実です。

※数字は宮城県・水産庁・総務省等の'12年12月末から'13年7月末のデータに基づく。

写真は、気仙沼市 震災4日後と2013年9月1日の同じ場所の光景。災害廃棄物はなくなったものの、一面、夏草が茂っている。



2013年9月5日情報提供／みやぎ生協

参加しました！東北支援生協ボランティアバス

ならコープ、おおさかパルコープ、よどがわ市民生協が運行している東北支援生協ボランティアバスに乗り、8月9日から12日まで岩手県の被災地を訪れました。高校生から70代の方まで102人が2日間被災地で活動しました。

1日目は大槌町にある墓地の参道の清掃。町の方がお墓参りを気持ちよくできるように草むしりをしました。炎天下の作業にたいする注意があり、体調を崩しても、町には病院がなく隣接の釜石市にも診療所があるのみ。これが被災地の現実でした。2日目は陸前高田市で、そうめん流しやお好み焼きを楽しんでもらい現地の方々と交流しました。子どもたちの元気そうな笑顔に出会えました。



津波で被害を受けた沿岸地域の視察では、まだまだ復興が進んでいないことを目の当たりにしました。土地の権利者の問題や資材と人材不足に加え、融通の利かない手続きのしくみの壁など、復興と生活の再生を阻んでいます。先のくらしの見通しが立たず多くの方々が大きな悩みの中にあることを胸に刻み、東北支援の取り組みを継続する必要があります。

低炭素の地域づくり戦略会議」奈良2013（第1回）

（主催：サークルおてんとさん、奈良県地球温暖化防止活動推進センター、気候ネットワーク）

2013年8月2日（金）奈良県経済倶楽部大会議室にて、今年度第1回が開催されました。この会議は昨年度3回の会議に引き続き開催され、県・市町村の担当課、地域協議会、推進員、NPO、生協、生協連、個人など46名が出席しました。奈良県生協からは*「生協の電力事業研究会報告書」の紹介をしました。

持続可能な低炭素の地域づくりにとって重要な自然エネルギーを普及させるための情報共有や課題について昨年度から検討を行い、その結果、奈良県内において、地域資源の活用や地域活性化につながる自然エネルギー普及への取り組みが小水力利用などで具体化し始めています。バイオマスや水利権の難しい問題は地域から変えていける可能性があり、必要に応じて個別につながり進めていく必要があります。前回からは、着実に進んでいるという実感がありました。「奈良らしい自然エネルギー利用を目指してスマートコミュニティのモデルを作ろう」との遊津奈良県地球温暖化防止活動推進センター長から呼びかけがありました。



参加者から各団体の報告

奈良県での再生可能エネルギー導入については、法規制、コスト問題もあり、他府県のように工業用地など未利用地も多くありません。ピコ水力発電ではなかなか費用対効果がでませんが、吉野町のように地域の取組として採算性とは別に、都市も巻き込んで地域間交流の一環で取り組めないかと模索中であるという行政側の思いもお聞きました。



会議の様子



スケジュール

1. 前回グループワークショップの振り返りと最新動向の紹介
2. 奈良県エネルギービジョンの解説（県エネルギー政策課）
3. 上津ダム小水力発電と倉橋ため池の太陽光発電について（県農村振興課）
4. 吉野町小水力利用の状況（吉野町小水力利用推進協議会）
5. 奈良県の特性を生かした再生可能エネルギー導入のあり方についての報告（NASO/OM環境計画研究所）
6. 市町村担当者からの再生可能エネルギーなどの取組み報告
7. 奈良県の再生可能エネルギー推進組織「市民エネルギー奈良」（仮称）の提案（気候ネットワーク）、意見交換

*「生協の電力事業研究会報告書」より
生協電力事業に関する提言

第1の柱「省エネルギーの推進：使い方を直し、減らすこと」

第2の柱「再生可能エネルギー発電：生協の資源や資産やネットワークを活用して、創ること広げること」

第3の柱「発電・利用一体の再生可能エネルギー普及：創って、使って、広げていくこと」

奈良県内の動き



吉野町殿川地区公民館の手作り木製水車



東吉野村小水力利用推進協議会設立総会



■吉野町小水力利用推進協議会の取り組み

エコでヒューマンな自立できる村づくりをめざして、吉野町殿川地区公民館や見附三茶屋で住民手作り水車での「ピコ水力発電」による地域おこしが住民の力によって進められています。

■東吉野村小水力利用推進協議会 発足

「元気な東吉野と林業をめざす会」が村の資源（豊かな木材、豊かな水、豊かな自然環境）の利用による経済政策としてまとめられ、「つくばね発電所」（大正に建設され昭和38年まで発電）の復活で地域づくりを目指すことを目的に設立されました。設立総会では、奈良県エネルギービジョンやならこぼからの吉野共生プロジェクトの紹介もありました。

***** おじゃましました～ならコープの巻～ *****



西大寺駅南口と八木駅から出発

お豆腐って、こうやってできるのね！

(コープ・ラボ見学)

8月21日(水)ならコープの食育活動の一つである*「たべる*たいせつキッズクラブ」主催 親子対象のコープ・ラボ見学に同行取材しました。『キッズクラブ』に登録されている9家族23人(内こども13名)が集まりました。

*ならコープでは、2007年から食育活動の一環で「たべる*たいせつキッズクラブ」という通信教育型の食育プログラム(日本生協連が開発)に取り組んでいます。子どもたちが調理や買い物などで発見したことなどを年4回(各2種類)レポートし、そのレポートに組合員である5人のサポーターから返信することにより家庭での食育を応援する取組です。今年度はメンバー対象の夏休み企画としてコープきんき 商品検査センター「コープ・ラボ」の見学会を開催することになりました。



コープラボ入り口

スケジュール*

①オリエンテーション

生協商品の生産、流通、販売を通じての安全・安心の概要のビデオを見ました。

②見学

検査項目ごとに実際の検査の様子を見学しました。

③生協商品学習

豆腐作り



①オリエンテーション



②見学



検査室は中が全部見えます

③生協商品学習

豆腐作り体験

「にがり」と「グルコノデルタラクトン」(GDL)を使って違いを見る実験



「にがり」と「グルコノデルタラクトン」(GDL)を使って実験!!



豆乳に混ぜて、鍋で蒸します。GDLの方が膨らむよ。消泡材を入れると泡が消える実験も。



さあ、蒸しあがった2種類の豆腐を味見しよう!



GDLの豆腐は酸っぱい「にがり」豆腐は甘みがあっておいしい!これが生協の豆腐になります。



参加されたお二人のお父さんに聞きました。「豆腐がこのような作られていることを初めて知りました。」「生協がこんなに検査していることを知りました。検査しなくてもいいような安心な社会になればいいのですが。」「自分で作ってみておいしかったです!」(参加された子どもの感想から) 家に帰って、親子の会話が弾んだことと思います。

消費者コーナー

なら消費者ねっと たのしくまなぼう!おかねのひみつとつかいかた



「2日間、街が学校になる」奈良 NPO センター「第9回奈良サマーセミナー」が8月3日4日開催され、なら消費者ねっとも8月4日「たのしくまなぼう!おかねのひみつとつかいかた」の講座を開きました。当日は親子8組17名の参加があり、まず参加者全員で「おこづかいYES・NOチェック!」で金の役割や、必要な物と欲しい物の見分けかたや計画してお金を使うことの大切さを学びました。

その後消費生活相談員の方から最近の消費者トラブル事例報告と続き、最後にお楽しみのクリアファイルを使ったお財布を作りました。小さな子どもたちには少し難しかったみたいですが、親子で折り方を確認しながら最後に準備したシールを貼ってかわいい財布が出来上がりました。

参加した子どもたちからは「ものやおかねをたいせつにしたいと思った。」「おかねをたいせつにしたい」、また親からは「子どもたちがネットトラブルに巻き込まれないか心配です。」など感想をいただきました。親子でお金のことを学ぶ機会がもっと増えるといいなと思いました。



消費者教育の
推進に関する法律が
施行されました

消費者教育推進法ってなに?

2012年12月、「消費者教育の推進に関する法律」が施行されました。

目的

- ・消費者教育の総合的・一体的な推進
- ・国民の消費生活の安定・向上に寄与

今 食の安全・安心に関する問題や、環境問題、悪質商法の被害そして多重債務など、消費生活に関する社会問題が深刻になっています。

私たち一人ひとりが自立した消費者として、安心して安全で豊かな消費者市民会を作るために消費者教育は重要な役割があります。

消費者教育の提供を受けることはすべての消費者の権利です。

「消費者市民社会」ってなに?

一人一人の消費者が、自分だけでなく周りの人々や状況、内外の社会情勢や地球環境まで考えて生活し、社会の発展と改善に参加する社会のことです。

地域では

消費者教育推進法は、地方公共団体のみならず、消費生活センター、教育委員会、消費者団体、事業者・事業者団体、学校、民生委員・社会福祉主事・介護福祉士その他高齢者、障がい者等の支援者、法律家等の専門家などに、広く、消費者教育を担ってもらうことを期待しています。

学校では

年齢に応じていろいろな取り組みが考えられます。

地方公共団体

地方公共団体に対し、「消費者教育推進計画」の策定「消費者教育推進地域協議会」の設置を求めています。

このたびの台風18号により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
一日も早く復旧されますようお祈り申し上げます。

紀伊半島大水害から2年がたちました 被災地は今！

奈良県南部に甚大な被害をもたらした2011年9月の台風12号による豪雨災害から、2年。被災地では、復旧・復興への取り組みが進む中、今も、五條市、十津川村、野迫川村で、99世帯、207人の方が避難生活を送り故郷への帰宅を待たれています。

河川や道路・橋梁の復旧、復興住宅の建設、生活再建に必要な住環境の整備などが進められている現在の状況を奈良県のHP「復興ポータルサイト」からご報告します。

被災直後

平成23年10月19日撮影

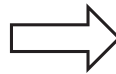
五條市宇井・清水地区



清水

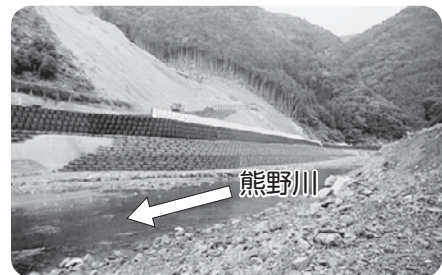
熊野川

宇井



現 状

平成25年8月22日撮影 (河川堆積土砂暫定掘削完了)



熊野川

平成23年9月6日撮影

野迫川村北股地区

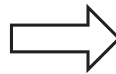


平成25年8月13日撮影 (下流より)



平成23年9月4日撮影

川上村迫地区



平成25年8月5日撮影 (現在、橋梁下部工事などを推進中)



「紀伊半島大水害復旧・復興の現状と取組 (平成25年9月更新版奈良県作成)」

南部地域産業復興推進大会

なんゆう祭

開催日

11月23日(土)・24日(日)

荒天中止

10:00～15:00 「大滝ダム」ダムサイト

10:00～16:00 やまぶきホール

開催場所

川上村「大滝ダム」周辺 川上村総合センターやまぶきホール

なんゆう祭は、紀伊半島大水害からの復興のため、南部地域特産品の生産・販売による地域の活性化を図るとともに、地域の風土・歴史・文化に根ざした魅力を発掘又は創造し、全国に発信することを目的に開催されます。

奈良県生協連も、南部地域産業復興大会開催協議会に参加し、応援しています。

詳細は、添付のチラシをご覧ください

広がる協同・くらしの輪

第21回 奈良県協同組合デーのつどい 開催

7月1日(月) 16:00～18:00 J Aならけん まほろばキッチン 「産直バイキングレストランかぐやま」にて、第21回奈良県協同組合デーが、*奈良県協同組合連絡協議会主催で開催され、約100名が参加しました。ご来賓を代表して奈良県消費・生活安全課 青山明彦主幹からご挨拶をいただきました。

「農協と私の歩み～わが故郷に感謝～」と題して、奈良県農業協同組合中央会 永田正利会長(奈良県協同組合連絡協議会委員長)の講演がありました。その後、まほろばキッチンの地産地消の食材を活かしたバイキング料理を楽しみながら各団体とも交流を深めました。



*奈良県協同組合連絡協議会(奈良県農業協同組合中央会、奈良県農業協同組合、全国共済農業協同組合連合会奈良県本部、奈良県森林組合連合会、奈良県生活協同組合連合会)

近畿地区生協・行政合同会議が開催されました

8月30日 近畿地区生協・行政合同会議が和歌山県で開催されました。厚労省近畿厚生局健康福祉部長野本宏氏からのご挨拶のなかで昨年度の指導検査結果から生協の業務運営上の留意点についてご報告いただきました。また、花王エコラボミュージアム館長妻鳥政樹氏から「花王の環境の取り組み」についてご報告をいただき、その後暮らしの安全・安心に向けた取り組み事例報告がありました。〔和歌山県の防災・減災(和歌山県総合防災課)〕、「なら消費者ねっと設立と初年度の活動(奈良県生協連)」「会員生協の被災地支援の取り組み(兵庫県生協連)」「適格消費者団体 KC's の活動報告(KC's)〕。



第20回奈良県食品安全・安心懇話会

2013年9月6日(金) 14:00～16:30春日野荘にて奈良県食品安全・安心懇話会が開催されました。

議題①平成24年度奈良県食品衛生監視指導結果について
②食の安全・安心行動計画(平成24年度～25年度)について
③食に関するリスクコミュニケーション『安全・安心な社会を目指して』の開催結果について④委員からの提案(BSE検査について、輸入食品の安全対策等について、寄生虫による食中毒について、遺伝子組み換え食品の内の遺伝子添加物の安全性評価について、県HPで紹介されている県産農産物・飲食店の衛生管理対策について、奈良県の自給率について、食品ロスについて、「奈良県HACCP研究会」の活動内容について)があり活発な議論がされました。

「奈良県HACCP研究会」は、奈良県内における事業者の食品衛生を推進するために、奈良県食品衛生協会とならコープが主宰してこの7月に発足し、奈良県版HACCPの認証制度創設の要望をあげています。



懇話会の様子(写真提供:奈良県消費・生活安全課)

～生協強化月間～ 医療福祉生協がスタート集会

奈良県医療福祉生協が9月28日みみなし診療所で10月から始まる生協強化月間のスタート集会を開き約30人が参加しました。「劇団みみなし」によるユーモアあふれる寸劇や奈良県保険医協会の竹島廣憲さんによる「TPPと日本の医療制度」の講演があり、参加した役職員と組合員は3か月にわたる月間活動への意欲を盛り上げました。



第24回 奈良県生協大会を開催します

2012国際協同組合年を契機に奈良県生協連では協同組合の理念を広げ役割を発揮する取り組みをすすめることを確認しました。5月18日の協同シンポジウム、7月1日奈良県協同組合デーのつどいに続き、第三弾の「ポスト国際協同組合年企画」として1月に第24回奈良県生協大会を開催します。2013年度方針では重点テーマとして「協同組合の理念を共有し地域社会に協同とたすけあいの実践を広げます」および「よりよい奈良の明日のために県南部地域活性化の活動に参加します」を掲げており、これらの具体化として、多くの人が南部地域活性化の可能性を共有し生協の良さを実感できる機会となるよう取り組みます。

■テマ 地域共生社会をもとめて～森、水、エネルギー そして人のきずな～

■日時・会場 日時：2014年1月18日（土）13:00～16:00 開場12:30

会場：奈良商工会議所5階大ホール（定員150人）

■概要 13:00 開会挨拶 ご来賓挨拶

13:10 基調講演 「地域づくりと協同組合の可能性（仮）」

講師：公益財団法人生協総研主任研究員 栗本昭氏

14:30 事例報告：「エコでヒューマンな自立できる村づくり」

報告者：企業組合HUC、C専務理事 岸田かおる氏

トークコーナー

（吉野町 北岡 篤 町長 奈良県森林組合連合会 山本 陽一 会長 他予定）

16:00 閉会

奈良県生協連第3回理事会報告 9月12日 奈良ロイヤルホテル

【主な審議事項】

- （1）2013年度上期活動のまとめと下期の課題に関する件
- （2）第24回奈良県生協大会開催に関する件（第2次）
- （3）①辻井宏育副会長の退任に伴う奈良県生協連の理事会体制について②奈良県への2014年度にむけての要望書③地域生協組合員理事交流会について④2013年度地方消費者グループフォーラムの開催について⑤2013年度食の安全懇談会について⑥「県民の安全と安心を守るための大集会～考えようTPP！私たちは守りたい！みんなの医・食・住～」の開催について⑦「子ども・被災者支援法の幅広い適用と早期実施 賠償の時効問題の抜本的な解決を求める請願署名」について

県連日誌

7月

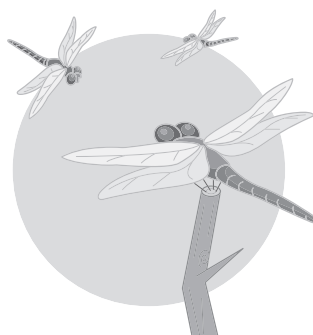
- 1日 協同組合デーのつどい
- 8日 近畿地区生協府県連協議会
- 9日 なら消費者ねっと運営員会
- 11日 第2回奈良県生協連理事会
- 16～ 日本生協連県連活動推進会議
- 17日
- 25日 関西地連運営委員会
- 26～ 福島の子ども保養PJ in なら
- 29日
- 27日 消費者契約法シンポジウム
- 30日 関西地連大規模災害協議会
- 30日 「南部地域産業復興推進大会開催協議会」
- 31日 労済生協総代会

8月

- 2日 低炭素の地域づくり戦略会議・奈良（第1回）
- 4日 平和市長会議総会傍聴参加
- 6日 なら消費者ねっと運営委員会
- 19日 第3回吉野共生プロジェクト推進委員会
- 30日 近畿地区生協・行政合同会議

9月

- 4日 第4回吉野共生プロジェクト推進委員会
- 6日 奈良県食品安全・安心懇話会
- 11日 第1回奈良県農林水産・地域の活力創造協議会
- 12日 第3回奈良県生協連理事会
- 12日 会員生協理事長交流会
- 13日 なら消費者ねっと運営委員会
- 14日 「県民の安全と安心を守るための大集会」
- 26日 関西地連運営委員会



お知らせ

● 2013年度 消費者シンポジウムinなら ●

～あつまれ！ママパパ・せんせい・学生さん～

みんなで考えるインターネット社会

開催日時

11月30日(土)午後1時～4時

会

場

奈良弁護士会館3階大会議室

基調講演

川村 哲二 弁護士(大阪弁護士会・電子商取引問題研究会)

寸 劇

相談員による事例紹介

活動報告(予定)

(主催 なら消費者ねっと 共催 奈良県)

編集後記

世界中の核兵器の廃絶を願う市民が数多く活動し、ヒロシマ・ナガサキの被ばくの実相も紹介されていることを平和市長会議に参加して初めて知りました。日本人として次の世代へと語り継ぐ大きな責任を感じます。今年度のピースアクションは世代を超えた交流ができる企画を、と思案中です。(辻)

今年は、猛暑、竜巻や台風、豪雨など日本列島は大荒れ。IPCCの最新報告が次々と出されます。地球全体で異常気象が発生しています。原発の汚染水対策も含め、東京オリンピックの開催年2020年はどんな夏なのでしょう。心配は尽きません。(順)

県連事務所でお手伝いさせていただいて一か月「共生の原稿を」と言われ頭の中で原稿用紙がぐるぐる回りあつという間の校了となっていました。(佳)

「里山資本主義」「再生可能エネルギー」「吉野共生プロジェクト」そして「なんゅう祭」…生協の取り組みも未来につながっている気がする。(和)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535

FAX 0742-34-0043

URL <http://www.narakenren.coop/>